

## 編集顧問

|       |       |
|-------|-------|
| 生田 房弘 | 臺 弘   |
| 大友 英一 | 金澤 一郎 |
| 酒田 英夫 | 佐野 圭司 |
| 島津 浩  | 杉田 秀夫 |
| 高倉 公朋 | 塚田 裕三 |
| 中里 洋一 | 彦坂 興秀 |
| 平山 恵造 | 藤澤浩四郎 |
| 真柳 佳昭 | 萬年 甫  |
| 水野 美邦 | 柳澤 信夫 |

## 編集委員

|             |       |
|-------------|-------|
| 岩田 誠 (編集主幹) |       |
| 石塚 典生       | 糸山 泰人 |
| 内山真一郎       | 梶 龍兒  |
| 河村 満        | 高坂 新一 |
| 作田 学        | 辻 省次  |
| 寺本 明        | 中込 忠好 |
| 中野 今治       | 水澤 英洋 |

## 編集同人

|       |       |
|-------|-------|
| 入来 篤史 | 岩田 淳  |
| 宇川 義一 | 内原 俊記 |
| 大隅 典子 | 岡部 繁男 |
| 神田 隆  | 木村 和美 |
| 久保 義弘 | 栗栖 薫  |
| 桑原 聡  | 小林 靖  |
| 斉藤 延人 | 砂田 芳秀 |
| 高橋 良輔 | 瀧山 嘉久 |
| 武田 伸一 | 千葉 厚郎 |
| 平田 幸一 | 寶金 清博 |
| 星 英司  | 星野 幹雄 |
| 本田 学  | 松野 彰  |

(五十音順)

## あとがき

昨年7月の国会でいわゆる改正臓器移植法がすんなりと通過し、脳死下における臓器移植が少なくとも手続き上は容易になった。今後、臓器移植数の増加が見込まれているが、われわれ臨床神経分野を担当しているものにとってはドナー側としてのさまざまな負担の増加が予想される。

筆者の施設でも3件の脳死下臓器移植を経験したが、1医療チームが“2泊3日”も停止するほどの仕事量であり、病院としても大きな経済的負担を負ったと聞いている。そのため中規模以下の病院では、たとえ患者が発生しても到底対応できない事態である。そこで、本号では「改正臓器移植法の問題点とその対応」という特集を組み、ドナー側である救急医学、脳神経外科、神経内科および小児科からみた今後の対応策を解説していただいた。

さて、脳死という思い出すのは、筆者の研修医時代である。CT スキャンも MRI もない1970年代、脳疾患の検査手段は、非侵襲的にはドップラーと脳波、侵襲的には脳血管撮影と気脳撮影（時に脳室撮影）しかなかった。重症のくも膜下出血や急性硬膜下血腫（と推定される）患者が来ると、検査としてはとにかく脳血管撮影を行う以外にはなく、総頸動脈を穿刺して造影剤を注入する。すると、内頸動脈が海綿静脈洞レベルまでしか造影されず、これを“non-filling”といって、頭蓋内圧が血圧を上回っている故であると説明された。このような場合、患者は深昏睡状態で両側瞳孔は散大し対光反射は消失しており、早晚呼吸停止となる。これが脳死の状態であると教えられ、挿管レスピレーター管理の下、あらゆる手だてを尽くしてもほぼ1週間以内に死亡するということを知った。以後、筆者も多数のいわゆる脳死患者をみて来て、脳死が事実上の人の死であるということを確認した。しかし、家族とともに精力的に治療をしている中で、脳死と判定された時点からこれを中断し、臓器の摘出に入るということには臨床医として著しい精神的負担を覚える。論理的には十分理解している脳外科医でもそうであるのに、ましてや世間の人には受け入れ難い状況ではないだろうか。わが国で、脳死下臓器移植を普及させるにはまだまだ時間がかかると思われる。まずは一般教育の中で、脳死や臓器移植の意義や実態を教え、多くの人が十分議論する中で意識を熟成させる必要があろう。

そしてその前に、臨床神経分野に属するわれわれがまずこの特集の内容を熟知し、改正臓器移植法を十分に理解し、われわれ自身の問題として真剣にとらえる必要があるものと考えられる。

(寺本 明)

## BRAIN and NERVE

(第62巻 第6号)

2010年6月1日（毎月1回1日発行）

定価2,730円〔本体2,600円＋税5%（配送料実費）〕

〔2010年、年ぎめ予約購読料35,460円・電子ジャーナル閲覧

オプション付46,100円（配送料弊社負担）〕

販売部直通電話 (03)3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693 番

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通(03)3817-5701 (小藤・多淵・山崎)

FAX (03)3815-7802

E-mail bn@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn

印刷所 ㈱アイワード

(011)241-9341

広告申込所 ㈱ハイブリッジエージェンシー (03)3814-0089

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2010, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は㈱医学書院が保有します。

・JCOPY (株)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。